澁谷審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成26年11月5日（水）19：00～19：10

場所：合同庁舎8号館

【冒頭説明】

シドニーの閣僚会議終了後、首席が残って議論していたので報告する。

シドニーの閣僚会議後、首席交渉官は10月28日から11月1日まで議論を行った。全体協議、バイの協議、少数国の協議、分野別の作業部会が開催された。分野別の作業部会は知的財産、国有企業、環境、投資、原産地規則、法的制度的事項について開催された。首席交渉官の全体協議であるが、細かい部分は閉じようということで、政治課題以外のテキストについてはほぼ終わったものもあるし、残っているものも1、2点と言うことで、宿題を持ち帰った。オタワ会合、ハノイ会合の後も同じような話をしたが、今回は明らかに論点が減っているし、テクニカルなものに絞られている。ただ、原産地規則は品目数がかなり残っているとのことである。知的財産、国有企業、環境のいわゆる難航3分野については、作業部会の協議状況を首席交渉官に報告を行い、北京会合での上げ方などについて、首席交渉官から指示を受け、それを踏まえて協議を行った。いずれにしても知的財産と国有企業などは、北京が終わった後も少なくともテクニカルな作業が残ることは確実なので、北京後の進め方についても議論があったようである。

北京での閣僚会合については、11月8日に開催するというので準備が進められており、その前に首席交渉官が集まるということで、鶴岡首席交渉官は本日出発している。ただしAPECを担当している首席交渉官も多いことから、首席交渉官全員が集まれる時間はあまりないが、調整を行っているとのことである。TPPの首脳会合は未定である。

【質疑応答】

（記者）首席交渉官で議論した6分野以外は、ほぼ終わりが見えたと考えてよいか。

（澁谷審議官）シドニー閣僚会議では、そもそも原産地規則は上がっておらず、物品テキストは上がったが、それも終わっていないので、おっしゃる通りではない。原産地規則が終わっていないということは繊維も終わっていない。

（記者）閣僚に上がった分野以外でも、閣僚に戻されることはあるか。

（澁谷審議官）閣僚に戻るかどうかはともかく、作業としては残る。ハノイ会合やオタワ会合を通じて集中的に取り上げた非難航分野については相当整理された。

（記者）難航3分野については、まだ政治レベルの論点は多いのか。

（澁谷審議官）その通り。

(記者) シドニー会合後、首席交渉官のバイ協議はどのくらい行ったのか。

(澁谷審議官) 数か国である。

(記者) 関税協議の進捗はどうか。

(澁谷審議官) 首席交渉官同士で、数か国と話をしている。

(以上)